

大会参加報告

平成 26 年度 全国高等学校総合体育大会サッカー競技(男子) 参加報告

----- 「山梨インターハイに参加して」 2級審判員：堀 善仁 -----

最初に、2年連続でインターハイという素晴らしい大会に参加させていただき、本当にありがとうございます。

兵庫県サッカー協会並びにお世話になった山梨県サッカー協会、大会関係者の方々にお礼申し上げます。本当にありがとうございました。

平成 26 年度全国高等学校
総合体育大会サッカー競技

煌めく青春 南関東
総体2014

7月31日～8月4日までの5日間、研修審判員としてインターハイに参加させていただきました。山梨県の気温がとても高いと聞いていたので、事前に暑さ対策や暑さに慣れるためのトレーニング等準備をして大会に臨みました。

Enjoy Football

この大会の初日で発表されたテーマです。

「Enjoy = 楽しむこと」

審判員として、自分が楽しむだけではなく、競技者・役員・観客・運営・審判員といったその試合に関係している人全てが楽しめるような試合を目指すテーマだということでした。

魂

2014/2015 競技規則の改正においては、第4条 競技者の用具 についての改正が多かったと感じます。そんな中、自分の試合でこんなことがありました。

試合開始前、先発メンバーの用具チェックをしていた時のことです。あるチームのアンダーウェアのタートルネックの見える部分に「魂」という刺繍がしてありました。

アンダーウェア

競技者は、政治的、宗教的または個人的なスローガンやメッセージ、あるいはイメージ、製造社ロゴ以外の広告のついているアンダーウェアを見せてはならない。

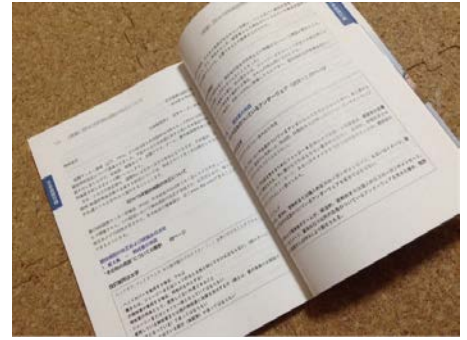
競技者および競技者のチームが、政治的、宗教的または個人的なスローガンやメッセージ、あるいはイメージ、製造者ロゴ以外の広告のついているアンダーウェアを見せた場合、競技者の主催者または FIFA により罰せられる。



全国の審判仲間と（右端：堀）



「魂」という刺繍は上記の個人的なメッセージにあたりとされています。今大会では審判団として、個人的なメッセージを基本的な用具（スパイクやキャプテンマーク）、アンダーウェアにしている場合の対応について、会場にいる高体連の担当者に報告し、審判報告書でその旨を報告すること、今大会のみの特別規定として替えがない場合はそのまま着用を認めるということが事前に連絡されていたので、対応することができました。



熱中症対策

山梨総体では暑さが問題となりました。体カテスト当日は気温が37度あり、体カテストが中止になることもありました。審判員としても熱中症対策を施さなければいけないと感じました。初日には健康チェック表の記入があり、体温や血圧の測定をしました。

熱中症対策のため、水分補給の重要性を山岸 JFA フィットネスインストラクターより教えていただきました。水分補給のポイントとしては、①5℃～15℃(常温程度)の水分、②飲む量は一回300ml程度ということでした。

試合に向けた準備

山岸 ins は熱中症対策の一つとして、試合に向けた準備の大切さも教えてくださいました。熱中症予防として、①毎日自分のコンディションを計測する、②当日までの準備、③当日、④試合中、⑤ハーフタイム、⑥試合後の6段階の準備が必要だということでした。

①毎日自分のコンディションを計測する。

- 起床時の心拍数を計測する。
 - 疲れがたまると心拍数が上がってくる。
- 体重
 - 日々の体重から1kg程度の変化は体内の水分量の変化
- 体温・血圧
- 自覚的コンディション
 - 生活リズムを整える

②当日までの準備

- 十分な睡眠
 - 睡眠不足は自律神経の乱れにつながる
- 栄養バランスのとれた食事
- 生活環境を整える

③当日

- 保冷容器の準備
 - 保冷ペーパーも最近売っている
- 飲み物の用意
 - 担架要員の方にドリンクを渡しておいて、持ってきてもらうことも可能
- アイシング用品
- エネルギー食品の準備

④試合中

- 飲めるタイミングでの積極的な給水

⑤ハーフタイム

- 水分補給（ハイポトニック系飲料）とエネルギー補給

⑥試合後

- ハイポトニック系飲料
- 排尿色の確認
 - 色が濃くなる程に体内の水分量がなく、危険な状態



Promising Attack

太田チーフインストラクターより、Promising Attack の和訳解釈の変更について説明がありました。Promising Attack とは、日本語でいう「大きなチャンス」です。これまで反スポーツ的行為を出す理由として、「大きなチャンスとなる攻撃の芽を摘むファウルを犯す」という一文がありましたが、今年の競技規則からその一文の内容が変わっています。現在の文章は「大きなチャンスとなる攻撃のじゃまをする」となっています。

この理由で警告する際、考慮する点は7つあります。

(前提として、相手側競技者の反則が直接フリーキックまたは間接フリーキックとなるもの
ということは除いています)

- ①攻撃のスピード
- ②パスの選択肢がいくつあるか
- ③攻撃側競技者の位置と数
- ④反則とゴールとの距離
- ⑤ボールをキープできる、またはコントロールできる可能性
- ⑥プレーの方向
- ⑦守備側競技者の位置と数



自分の試合を振り返って

■大会第一日目 8月2日 一回戦 長坂総合スポーツ公園

「尚志高等学校 対 麻布大学付属高等学校」 担当：主審



前日の研修試合で主審割当をいただいたのですが、判定面等で後悔が残り、「インターハイで主審をする」という目標が達成できないかと思っていたので、主審割当をいただいた時は正直ホッとしてしました。

試合前には前述のアンダーウェアの件があり、緊張していたと思います。キックオフの笛を吹いてからも、どこにポジションをとればいいのかを考え、探りながら審判をしていました。前半の飲水タイムまでが非常に長く感じたことを覚えています。

副審や第4の審判員の方々からのサポートもあり、後半も試合は進んでいきました。試合終了の笛を吹いた時、無事に試合が終わって本当によかったと思いました。反省する点は色々ありますが、またこのような大会で主審を担当したいと思います。

■大会第二日目 8月3日 二回戦 押原公園天然芝グラウンド

「鹿児島実業高等学校 対 高川学園高等学校」 担当：副審1

いつも通り、オフサイドラインキープを意識して担当しました。試合後、上川insより「ゴールキックの際、ゴールエリア内にボールが置かれているか確認した後、オフサイドラインに戻るダッシュにスピード感があった。」と評価してもらいました。

当たり前のことを当たり前に行うことの大切さを改めて感じました。またこのような大会では、そのチームの試合を担当した審判員と話をすることでチームの情報を得ることができるということを教えていただきました。先入観ではなく、どのような攻撃をするのかといった情報を得ることで、試合に向けた準備をすることができ、余裕を持って試合に入ることができるということでした。

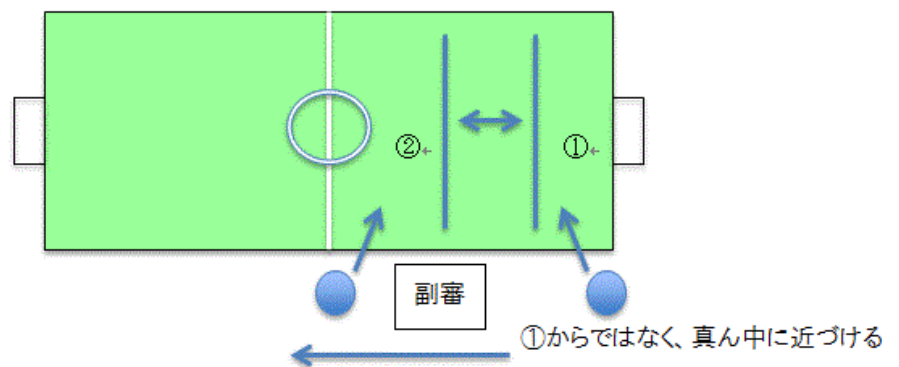


■大会第三日目 8月4日 三回戦 韮崎市宮御勅使サッカー場

「前橋育英高等学校 対 矢板中央高等学校」 担当：第4の審判員

最終日まで審判割当をいただけることに喜びを感じながら、担当しました。この試合では第4の審判員として、気遣いを大切にしないといけないと感じました。

例えば、負傷してフィールド外に出た競技者がいた場合、復帰する場所も考えないといけないと感じました。



①の場所からフィールドに復帰すると、副審の方がキープしなければならないオフサイドラインが変わってしまいます。副審としては、突然オフサイドラインの場所が変わってしまうことは嫌だと思います。そこで、先に負傷した競技者を少しでもハーフウェーラインに近づけておけば、オフサイドラインも変わらず副審の方も困らないと考えます。こういった気遣いを試合中にしていかなければいけないと考えました。

大会全体を振り返って

2年連続でインターハイに参加させていただき、今回は主審を担当させていただくことができました。また試合だけではなく、夜の研修会では、イングランドのグラハム ins や兵庫県の大歳 ins、PR の大塚国際副審の講義を受けることができ、非常に勉強になりました。

フィジカルトレーニングやプラクティカルトレーニングもあり、非常に充実した5日間を過ごすことができました。また全国の1級審判員、2級審判員、インストラクターの方々と交流できたのも良かったです。この大会で得たことを無駄にせず、今後関西や兵庫県で頑張っていきたいと考えております。

来年には兵庫県で男女同時開催のインターハイがあります。今後ともご指導ご鞭撻の程、何卒よろしくお願い致します。

最後になりましたが、山梨県サッカー協会の方々には大会期間中非常にお世話になりました。そして担当する試合を見に来ていただいた兵庫県協会の小川先生、吉本先生、高校時代の恩師でもある吉田先生、ご支援いただきました高体連の辺見先生、関係者の方々にお礼を申し上げます。

本当にありがとうございました。



以上